

## 新歓沢組 大血川・タカノス谷廻行 山行報告

(山城) 奥秩父

(コース) 大血川 タカノス谷 (沢登り)

(日時) 10月16日(日) 08:30~13:30

(天候) 晴れ

(参加者) CL 柘植、SL 高梨、小原、萱野宏、鶴田、井本、加藤、澤田路、佐藤(記録)

(山行タイム) 大血川西谷入口ゲート 08:30—西谷廻行—09:30 タカノス谷出合—タカノス谷廻行—11:50 霧藻ヶ峰の巻き道—13:30 大血川西谷入口ゲート—大滝温泉入浴・帰葉

前夜の宴会ではあまり食べずにだいぶ飲んでしまい、寝不足もかなり手伝って早々に爆睡、かなりお世話していただいたみたいで大変失礼しました。途中からの記憶が飛んでます^^

新歓2日目は、大血川(おおちがわ)の源流、西谷からタカノス谷への沢コースに参加しました。

大血川という物騒な名前の由来は平将門伝説ですね。奥多摩駅から雲取山への石尾根にも将門馬場という場所がある。

キャンプ場を出発して大血川林道を進み、落石を避けてゲートから少し離れたところに8時過ぎに駐車し、身支度を整えて8時半頃に入渓する。昨日と違ってすごく寒い、早く体を動かしたい。

実際に入渓すると、大血川という暗いイメージとは全く違って、広めの明るい沢なので驚いた。小滝やナメが続き小さいが釜も多く、天気が良いせいもあって水面がキラキラ輝き綺麗なものである。CLのチョイスらしくないとか言ってみる。



入渓地点付近 (渓相は明るい)



下に滝のある滑は用心のためスリングを張る

ちょっとしたシャワークライムもあり、滝の登りは難し過ぎず、けども適度に緊張感があり楽しい。途中、オーバーハングしている岩があり、普通には越えられないところがあった。まず、小柄なSさんがうずくまり足台にしてCLが上がる。Sさんが痛々しい。次いで上からスリングをかけてもらい、アブミをつくり左足をかけて力任せに上がった。林道が脇を通っていて鉄橋の下を3回通過したあと貯水槽があるタカノス谷出合に到着して休憩した。





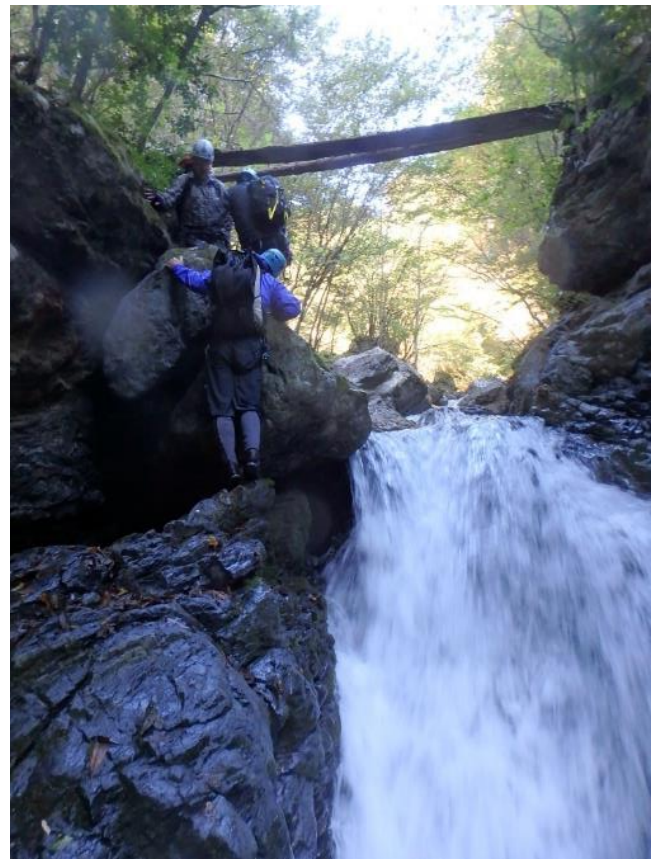
8 m滝前で記念写真



鶴田さん突っ込む



水遊びする加藤さん



ボルダリングで攀じ登る滝

ここまで約1時間、ここから本流と別れて右手がタカノス谷。水量がぐっと減り、楽しい時間もぐっと減ってしまった。ちょっと上がったところにペタッと潰れた小屋があり、こんなところになんで? という感じである。釣り客用だったんですかね。小滝は何度かあるものの、しつこいヤブが続いてちょっとブルー、だけどグリーンな、ふっさふさのアフロっぽい苔に癒される。タカノス谷出合から約1時間、1100m くらいまで登ると水が涸れて右手の壁から少し水が流れている。伏流のためまた出るかも知れないけれどいちおう最終水場ということでしばし休憩する。





正面を登れずに細ルンゼから巻く



源流付近の幻想的な景観



詰めの涸れ滝を登る



登山道に出る手前の穏やかな斜面

再出発後、しばらく水の無いゴロ帯を 1200m くらいまで登ったところで CL から沢を間違えたとの報告あり。どうやらさきほど休憩したちょっと上の右手の涸れ沢が正解だったらしい。戻るのも面倒だし、残りは登り詰めるだけなので、右手の急斜面を登って尾根筋を上がることにする。つかむ木の少ない急こう配を登っていくが沢シューズなのでめちゃくちゃ滑る。途中で靴を履き替えハーネス等も外してさらにしばらく登ると広いなだらかな場所に出る。地図上 P1580 の北東側の広い面である。落ち葉の中をサクサクと歩いていくと霧藻ヶ峰の巻き道に出る。ピンクテープに気づかなければ見落としそうな薄い登山道である。

ここで 12 時くらい、昼食を摂って下山にとりかかる。最初の 30 分くらいはなかなか高度が下がらず萎え気味。途中、大きい糞が 3 つ、クマ出没注意。1 時間ほど歩いたところで大血川林道に出てまた登山道に入り、3 回目に眼下に赤い屋根の太陽寺が見える道に出た。ここから駐車位置まで 15 分ほど歩いて 1 時半にゴール、お疲れ様でした。大地川林道は 5km 上が崩壊して現在は車両通行禁止、太陽寺のちょっと上のゲートが閉鎖されている。路上の落石も多いので走行・駐車には注意が必要である。

立ち寄り湯は道の駅大滝温泉、しっとりぬるぬる系のいいお湯です。帰りは関越道の渋滞を避けて、鶴ヶ島から圏央道経由で東北道に入り 18 時半頃に船橋に着いた。I さん、三郷南 IC から篠崎 IC までの下道ナビ、ありがとうございます。

帰宅後調べたら、西谷はタカノス谷出合から左手の石楠花沢からの、フレイワ沢や大滝のある右俣の記録が多い。また機会があったら行ってみたいと思う。